

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/精神看護学】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神看護学実習	NSP34_007	必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
森川 三郎 他	417	s.morikawa	月・金曜日 9:00～17:00		
授業の目的・概要	精神の機能障害がある人に対する看護の実践を学び、精神看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度の修得を目的とする。病院では、精神科病院特有の構造及び管理、他職種との連携やチーム医療の意義、担当患者の持つストレスの確認、および担当患者との関わりについてのプロセスレコードの記載・検討会による自らの関わり方等、について学ぶ。社会復帰関連施設の見学を通して、精神障害者が地域で生活を送るために必要な地域生活支援を理解する。学内実習では、ロールプレイ演習を行うことによりコミュニケーション技術の身に付け、また紙上事例を通し精神機能に障害をもつ人に対する急性期における看護過程を展開する。				
学習上の助言	精神看護学概論・援助論Ⅰ・援助論Ⅱで習得した知識を踏まえて、精神看護対象者のストレスを見出すために、各人の感性を活かして人間関係を形成することが援助への第一歩となる。				
教科書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 第6版/著・武井麻子/医学書院/2021 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 第6版/著・武井麻子/医学書院/2021 [2冊指定]				
参考書	・リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレスモデル実践活用術/萱間真美/医学書院/2017 ・オープンダイアログ私たちはこうしている/森川すいめい/医学書院/2021				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	精神科病院・病棟の環境や管理の方法と治療・看護の関連を理解できる。	HSU(3),(4),NS(1)～(5)			
②	対象者を支援する様々な精神科専門職種との関連、看護職の役割と機能を理解できる。	HSU(3),(4),NS(1)～(5)			
③	精神科医療における治療法及び社会復帰活動についての援助の方法を理解できる。	HSU(3),(4),NS(1)～(5)			
④	担当患者を通して、対象者の特性、健康問題、ストレスを理解することができる。	HSU(3),(4),NS(1)～(5)			
⑤	提示された事例の看護過程を展開することができる。	HSU(3),(4),NS(1)～(5)			
⑥	実習を通して自分の精神看護に対する見方・考え方を明確にできる。	HSU(3),(4),NS(1)～(5)			
授 業 計 画					
1.実習時期 :3年次後期 2単位 2.実習期間 :2週間 令和7年9月～令和7年12月 3.実習場所 :病院および学内 1グループは5～6人で編成する。 4.実習内容 ・病院実習および学内実習とする。学内は対面授業を行う。必要によりオンライン (Teams) による講義・演習を行う。 ・学内実習では、DVD及び撮影動画の活用①精神科看護・精神科病院の理解の動画視聴、②精神科病院での実習イメージ作り、③地域生活支援、④当事者の理解、などによって理解を深める。 ・看護過程の展開については、自己学習・グループワーク・全体発表を行い、看護問題・対策等を議論する。					
5.実習スケジュール					
		実習内容	実施場所		
1週目	1日目	実習オリエンテーション (実習スケジュール、実習に臨む注意事項など)	学内		
	2日目	病棟・病院(隔離エリア含む)オリエンテーション 患者紹介/患者対応	病院		
	3日目	患者対応/他職種(OT・CP・PSW等)説明	病院		
	4日目	ディケア見学実習/患者対応/最終カンファレンス	病院		
	5日目	プロセスレコード演習/事例検討の自己学習/関連映像視聴	学内		
2週目	6日目	ロールプレイ演習/事例検討の自己学習/関連映像視聴	学内		
	7日目	社会復帰施設利用者・ピアヘルパーの講義/関連映像視聴	学内		
	8日目	社会復帰関連施設の見学・実習	施設・学内		
	9日目	事例・発表準備/事例看護過程発表	学内		
	10日目	実習のまとめ/記録の整理/評価面接	学内		

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/精神看護学】

学習課題・学習時間 (時間)							
精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの授業資料を復習し、実習要項を読み込んでおくこと。							
必要時間:6時間							
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	70	10	0	20	100
総合力指標	知識・技術力	0	20	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	10	0	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	10	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
問題を見発見・解決する力	0	10	0	0	0	10	
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					
レポート 成果発表 その他	①	✓	看護過程展開の記録、日々の記録、その他のレポート、実習に取り組む姿勢・意欲・協調性等を総合的に判断する。 学生が達成すべき行動目標①～⑥について自己評価を行い、実習最終日に実習指導教員と面接を実施する。				実習記録などについてコメントを伝える。実習最終日の面接で総合的な評価を行い、学生が今後の課題を見出せるようにする
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
備 考							
他担当教員	河窪くみこ、小島佳奈						
教員の実務経験	<ul style="list-style-type: none"> ・病院実習では精神科病院の構造上・管理上の特徴を確認する。3日間の入院患者との関わり、ディケア見学実習、他職種(Dr・OT・PSW・CP他)に関する実際の活動に触れる。 ・社会復帰施設を実際に見学し、又施設利用者・ピアヘルパーからの実際の活動を伺う。 ・学内実習では、プロセスレコード演習及びロールプレイ演習を実践する。 ・紙上患者(急性期患者)の看護過程の展開を実践する。 						
実践的授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わるためにはエネルギーが必要である。まず自分自身の心身の状態を自己管理して整え、自分の持ち味を活かして日々の実習に臨んで下さい。 ・今後、社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。 						
その他							